

第 27 回先史学特講 I 課題：稲作の起源について、焼畑雑穀栽培と水田根菜栽培のどちらが、関係深いと思いましたが？とくに重要だと思う理由と一緒に説明してください。

【水田派】

1. 水田根菜栽培のほうが関係深かったと思われる。技術の面からみて、水田根菜栽培で用いられたであろう初歩的な灌漑技術が、計画的な稲作へとつながった可能性がある。
2. 水田根菜栽培が稲作の起源ではないかと思う。当時の人々は稲作のほかにも狩猟や採集も行っていたため、肥料不要で雑草が生えないという手間のかからない栽培方法をとっていたのではないか。
3. 私は、水田根菜栽培が稲作の起源と関連が深いと思う。理由は、水田のメリットである「灌漑水路施設で内陸漁労と結合できる」という点。稲作の初期段階では、食糧調達の大部分を稲作に頼っていたと考えるより、狩猟採集あるいは漁労による食糧の獲得が重要であり、それと結合できる水田が好まれたと考えることができるからである。
4. 水田根菜稲作のほうが、焼畑に比べて豊凶が極めて小さく、安定した収穫が得られたという点から、稲作につながったのではないかと思う。
5. 野生イネが熱帯の開けた湿地に生息していたことを考えると、イネの栽培もそれに似た環境で行われたと思われる。初期は積極的に灌漑をやっていたわけでもなくとも、水田に近い湿地帯で栽培を始めたと考えられる。
6. 何年も続けて栽培できる水田のほうが場所を変えなくてすむので、メリットが大きいと思う。肥料が必要ないという点から、水田根菜栽培のほうがだと思う。なぜなら、最初においては肥料という発想はあまり出てこないと思うからである。

【焼畑派】

1. 起源は焼畑にあると思います。熱帯ジャポニカ種を利用して始まった焼畑農業がやがてもっと安定した方法へと発展した結果、水田を利用するようになったのではないのでしょうか。
2. 焼畑には収穫量が維持できないという欠点があったからこそ、それが改良されて、安定した収穫を得られる稲作が誕生したのではないだろうかと思う。水田→稲作にはどのようなメリットがあったのかいまいよく分からないので。
3. 焼畑は危険が多く、持続力も少ないため、わざわざ選択して行われていたとは考えにくい。
4. きっかけとしては、水中よりは焼いた土地のほうがありうるのかなと思う。水田のノウハウがそのまま伝わったのではない限り、焼畑と考えるのが自然のような気がします（合理的な理由が思い浮かびませんでした・・・）
5. 焼畑のほうが簡易な方法であるので、水田栽培よりも起源が早い可能性があるのではないかと。**⇒実は雑草管理は水田の方がずっと容易だというメリットがあります。**

【無派閥】

1. 消化のよい米を食べることで疫病が減少したのが生存に有利にはたらいた。例えば、大腸がんの減少など。狩猟採集からの解放でストレスが減り、長寿命化した。